

56. オープンキャンパス開催方法と参加者の傾向について

学院 義肢装具学科 野原耕平、星野元訓、丸山貴之、中村喜彦、吉岡久恵、小濱友恵

【はじめに】学院では入学希望者への情報提供手段として毎年オープンキャンパス（以下OC）を開催している。義肢装具学科では受験者数増加を目的として、平成28、29年は3回、平成30年は4回、令和元年は5回と実施回数を増やしてきた。しかし、令和2年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、参加型OCを実施することができなかつたため、OC特設サイトを開設し、学科及び義肢装具の説明動画6本を公開するにとどまった。対面開催が困難な中、令和3年からはオンライン会議システムを用いたオンラインOCを開始した。対面開催が可能となった後も、感染症拡大状況に応じてオンライン開催を実施し、令和3年はオンライン開催を2回、対面開催を1回、令和4年はオンライン開催を1回、対面開催を2回実施した。令和5年は新たにオンラインと対面のハイブリッド開催を取り入れ、ハイブリッド開催を3回、対面開催を1回行った。これまでの対面・オンライン・ハイブリッド開催の内容と参加者の傾向について報告する。

【対面開催の内容】在校生協力のもと、義肢装具の製作実演や複数の体験型コーナーを在校生と交流ができる形で実施した。インターネット・SNS等を中心に情報収集している入学希望者に、入学後に学ぶ内容や学生生活、卒業後に義肢装具士として行う作業や製作する製品に対して、より具体的に理解してもらうことを1つの狙いとした。

【オンライン開催の内容】対面開催の内容をオンラインで伝えるため、企画段階から在校生に協力してもらい、義肢装具の製作実演の様子をリアルタイムで配信した。また、在校生への質疑応答の時間を設けることで、在校生を通して当学科の雰囲気を感じてもらえるように工夫した。

【ハイブリッド開催の内容】対面で開催し、それをオンラインで配信する形でハイブリッド開催とした。企画段階から在校生に協力してもらい、義肢装具の製作実演では対面参加者向けの説明とは別にオンライン参加者向けのナレーションを入れることで、聞き取りやすい配信となるように工夫した。また、在校生への質疑応答に対面参加者とオンライン参加者が同時に参加できるようにして、参加者に一体感を感じてもらえるように工夫した。しかし、初めての試みであったこともあり準備、運営が煩雑となつてしまい、今後の課題となった。

【参加者の傾向】令和元年に対面開催されたOCでは、関東地域からの参加者が71%で関東地域以外からの参加者よりも多く、令和5年のハイブリッド開催でも、対面参加者は64%と関東地域からの参加者が多くなつた。これに対し、ハイブリッド開催のオンライン参加者では関東地域以外からの参加者が79%となつた。これは対面参加を迷う関東地域以外の在住者を、よりハードルの低いオンライン参加で受け付けることができたため、参加者の掘り起こしにつながつた可能性がある。

【まとめ】ハイブリット開催には、関東地域以外からの参加者を増加させる可能性があるなど多くの利点が考えられる。その一方で、準備、運営の煩雑さには課題が残り、実施内容をハイブリッドであることを活かしたものに改善する余地も残つた。今後はこれら課題の改善を進める。